

米ドル建て新興国債券と新興国通貨の動向

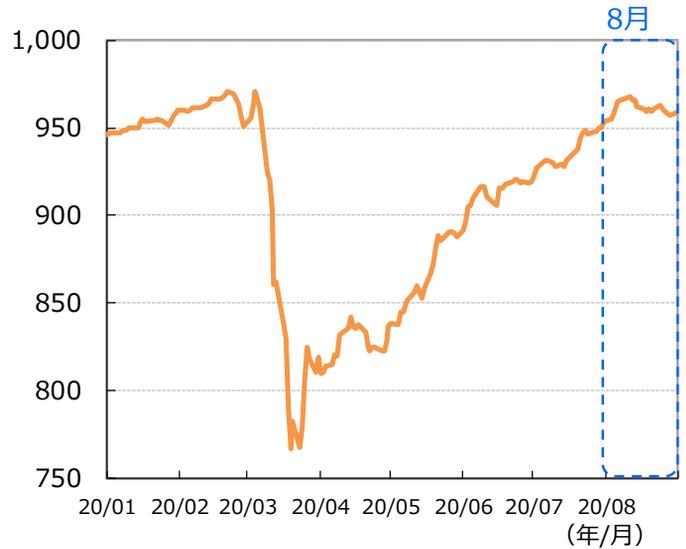
【8月の米ドル建て新興国債券は上昇】

●8月の米ドル建て新興国債券は米ドルベースで約0.51%上昇しました。

米国の債券価格が下落（金利上昇）したことは、米ドル建て新興国債券の月次リターンにマイナス要因となりました。一方、米ドル建て新興国債券のうち信用格付の低い債券は、より高い利回りが見込めるとの期待などから買われました。結果として、米ドル建て新興国債券は上昇しました。

国別では、先月に上昇したサウジアラビア、フィリピンなどが下落した一方、信用格付の相対的に低いスリランカなどが上昇しました。

米ドル建て新興国債券インデックスの推移（日次）



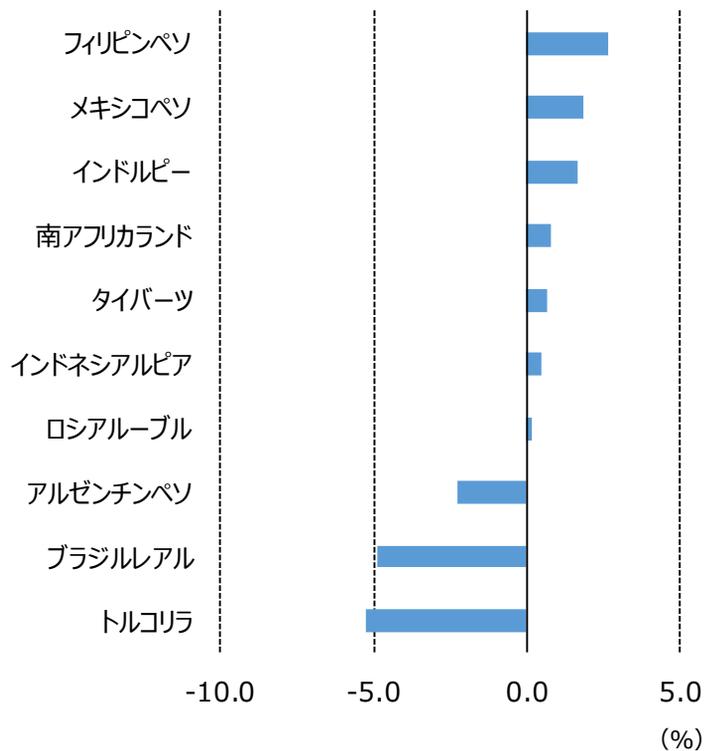
期間：2020年1月2日～2020年8月31日（日次）

【8月はフィリピンペソが上昇】

●8月の主要新興国通貨の騰落率をみると、フィリピンペソ、メキシコペソ、インドルピーなどが上昇しました。フィリピンペソは、フィリピンの中央銀行が8月20日に開催される政策決定会合で金利を据え置くとの見通しが広がる中、上昇しました。フィリピンの政策金利は今年に入って4会合連続で引き下げられ、過去最低の水準となっていました。8月20日開催の政策決定会合で据え置きが決定されると、フィリピンペソは、その後は小動きとなりました。

一方で、トルコリラ、ブラジルレアル、アルゼンチンペソが下落しました。トルコリラは、トルコ政府が国営銀行を通じて買い支えてきたものの、原資の外貨準備が減り続けており、通貨防衛の目安の水準を切り下げたとの観測が広がり下落しました。ブラジルレアルは、新型コロナウイルス感染拡大を背景とした財政悪化懸念等から下落しました。さらに、ボルソナロ大統領が貧困家庭向けに現金給付策の拡充を計画する中、経済政策を統括するゲジス経済相が財政支出の上限を順守すべきと主張し、双方の対立が表面化したことも嫌気されました。

8月の主要新興国通貨騰落率（対円）



出所：JPモルガン社、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成
米ドル建て新興国債券インデックスは1993年12月末を100として算出されています。

当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

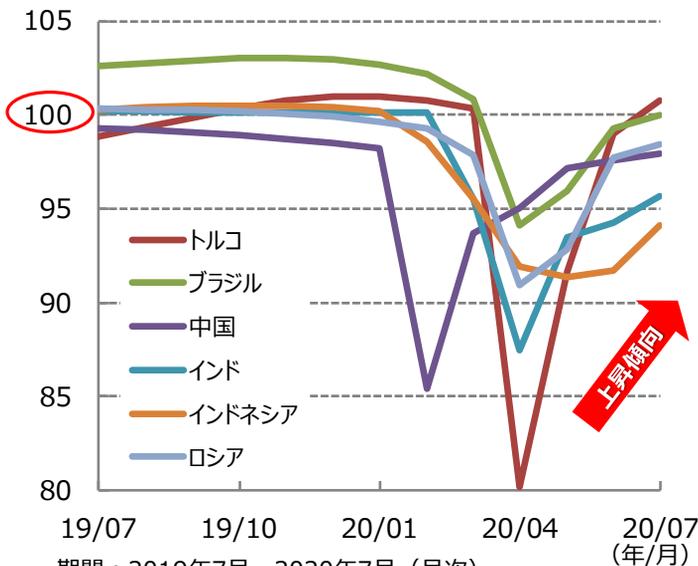
今月の注目点：米ドル建て新興国債券はさらなるリターンが狙える可能性も

【新興国の景気は底を打ちつつある】

● OECD（経済協力開発機構）が発表する景気先行指数をみると、足許で主要新興国の一部では、景気は底を打ちつつあると見られます。OECD景気先行指数は各国の受注動向や株価などから算出されます。好不況の境目が100で、上回れば景気の拡大局面を示すとされます。

● ブラジルやトルコなどの一部の新興国では、7月に景気拡大の分かれ目である100を上回っています。その他の新興国でも、2020年4月を底に、OECD景気先行指数は上昇傾向にあるよううかがえます。

(長期平均水準 = 100)



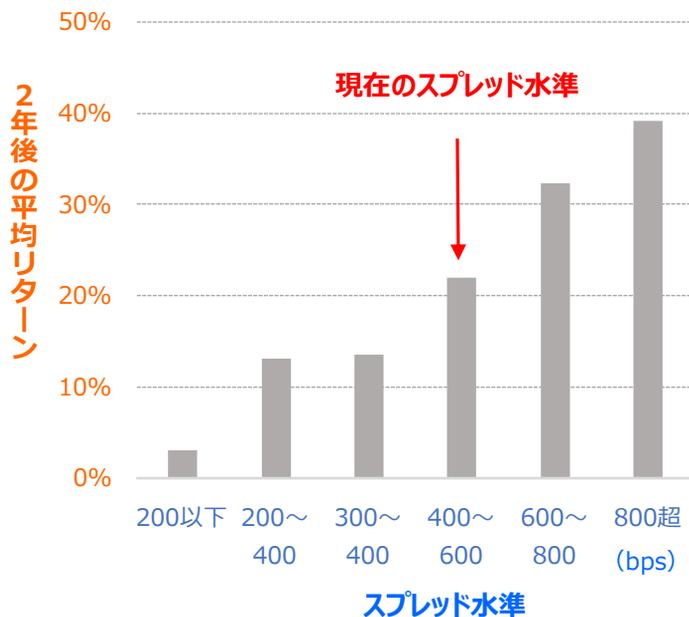
【足許は下落前の値まで回復も、さらなるリターンが狙える可能性】

● 新型コロナウイルスの感染拡大によって、2020年2月中旬頃に米ドル建て新興国債券も価格が下落しました。しかし、世界の中央銀行が緩和的に動いていることなどから、足許米ドル建て新興国債券の価格は下落前の水準まで回復しています。

● 米ドル建て新興国債券の利回り水準をみるための指標として、スプレッド（米国国債との利回り格差）があります。スプレッドは、発行体が債務の返済不履行となるリスクに対して支払われる追加的な利回りです。コロナショックのようなことが起きると、スプレッドは拡大する傾向にあります。

● 過去を振り返ると、米ドル建て新興国債券はスプレッドが低いときより高いときのほうが、2年後のリターンは平均的に高い傾向がみられます（右図参照）。8月末時点のスプレッドは423bps（ベースポイント）です。過去の傾向をみると、今後の追加リターンが期待できる水準にあると思われます。

スプレッド水準と2年後のリターン*



当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

投資信託のお申込みに際してのご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

ご留意いただきたい事項

当資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

当資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。当資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。

投資信託に係る費用等について

◇投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料： 上限 4.40%(税込)
信託財産留保額： 上限 解約金額・償還金額の0.600% または1口（設定時1口1万円）あたり250円

◇投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）： 上限 年 2.035%(税込)

その他の費用・手数料： 上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳細につきましては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T & Dアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をよくお読みください。

照会先

T&Dアセットマネジメント株式会社

電話番号： 03-6722-4810（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ： <https://www.tdasset.co.jp/>

特別な記載がない限り、下記のインデックス(トータルリターン、最終利回り)を使用しています。

- 米ドル建て新興国債券インデックス:JPモルガンEMBIグローバル・ディバーシファイド・インデックス
指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPモルガン社に帰属しております。JPモルガン社は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。JPモルガン社は指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。
- 当資料中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。